

福生中学校区の取組

1. 心の教育・生徒指導

2.

(1) 心の教育

①「人権教育15年プラン」の見直し

校区内の3つの学校の人権教育主任会を開催し、「人権教育15年プラン」の見直しを検討してきた。その過程で、2つの小学校での共通教材の確立をしていくことと、小中9年間の学習内容の系統化をはかることを確認した。今年度は、各校の年間指導計画の見直しと擦り合わせをすることができた。



②校区人権教育授業研究会の開催

毎年、校区内の3つの学校が輪番で、校区内全教員が参加する人権教育の授業研究会を実施している（今年度は福生東小で実施）。事後研究会では、当番校の人権教育の取り組み状況について、校区内での共有化を図ると共に、校区で共通して人権教育の視点にたった授業づくりをすることで、児童生徒の自己肯定感・自尊感情を育み、豊かな人間関係づくりができる力を育てていくことを確認することができた。



(2) 生徒指導

①校区指導委員の方と小中の連携



校区指導委員の方との連携として、「校区指導委員会」と「校区一斉巡回指導」を定期的に行った。指導委員会では、双方で情報交換を行うことで、児童生徒の健全育成に繋げることができた。校区一斉巡回指導では、長期休業中に校区を巡回し、必要に応じて児童生徒に注意喚起をし、安全な生活を促すことができた。

②小中の連携

小中の連携として、「小中連絡会」を定期的に行った。情報交換を行うことで、児童生徒の様子や、各校の取り組み、課題を共有することができた。また、「あいさつ運動」では、生徒会メンバーが児童の登校時に小学校へ出向き、児童と一緒に活動を行った。活動を通して、児童生徒の交流を図ることができ、生徒は自覚を持って取り組むことができた。また、児童は、生徒の姿を見て自主性やリーダー性を感じることができた。



2. 特別支援教育

(1) 3校特別支援学級の交流会・中学校特別支援学級体験学習の実施

○3校交流会「おもしろなかよしやったね会」の実施

- ・年間2回（中学校・小学校各1回）実施し、児童生徒の交流を図った。
- ・各小学校の卒業生と在校生が久しぶりに出会う機会となり、お互いの成長を感じ合ったり、新しい仲間と出会ったりする場となり、児童生徒のつながりを深めることができた。



○中学校体験学習の実施

- ・小学校5年生、または6年生児童が、中学校特別支援学級で体験学習を行った。
- ・中学校の教室や特別支援学級の授業の様子を知ることにより、中学校入学後の見通しを持つことができ、安心して進学することができた。



(2) 小中共通ユニバーサルデザインチェック表の活用

- ・ユニバーサルデザインの学級づくり、授業づくりを各校で取り組み、小中共通ユニバーサルデザインチェックリストを学期始めに活用した。落ち着いた環境作りに向けた良い指針となった。

(3) 小中学校間の情報提供

特別な支援を必要とする児童生徒（不登校児童生徒等）の実態把握、対応について特別支援教育の視点で情報交換する場を学期に1回行った。各校の実態が把握できると共に中学校卒業後の情報を得ることもでき、進路について悩んでおられる保護者への相談活動につなげることもできた。

3. 健康教育

(1) 中学校区生活アンケートの実施

H25年度より、基本的な生活習慣やメディアとの接触、家庭学習、家庭でのコミュニケーション等の項目について3校共通の生活アンケートを実施し、中学校区の子どもたちの生活実態を把握している。

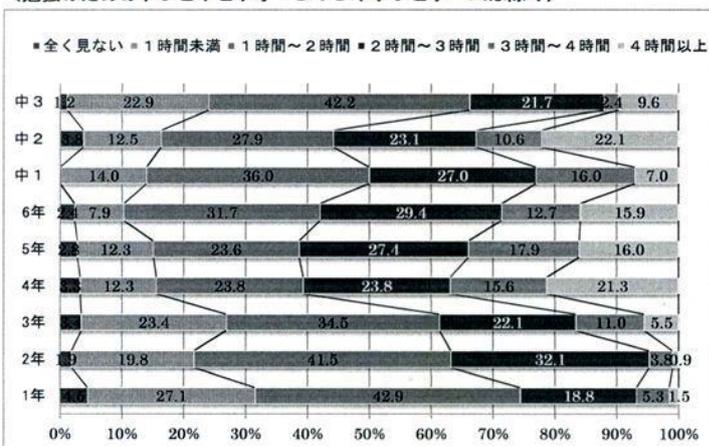
アンケート内容についても検討を重ね、質問項目を全国学力・学習状況調査のアンケートの内容に合わせ、県や全国の結果と比較できるようにしたり、2学期に実施していたアンケートの時期を1学期に変更し、各校での2学期からの取り組みに結果を活用できるようにするなど、改善を図りながら取り組んでいる。

(2) アンケート結果の分析とその活用

生活アンケートの結果から見えてくる中学校区の子どもたちの生活実態について、結果の分析を行い、望ましい生活習慣や心の健康について、実態報告とともに改善策についても提案するなど、中学校区共通のたより（下記に抜粋を掲載）を発行して保護者啓発を行っている。結果の分析の中で、数年間の年次推移なども載せることにより、小学校から中学校を通した子どもたちの生活環境の変化についても比較し、提示している。

また、中学校区で期日を合わせて行う「ノーメディア週間」での啓発資料としたり、各学校の学校保健委員会や職員会、懇談の資料に活用するなど、広く周知を図るようにしている。

1日あたりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDをみますか？
（勉強のためのテレビやビデオ・DVDやテレビゲームは除く）



普段（月～金曜日）1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか？



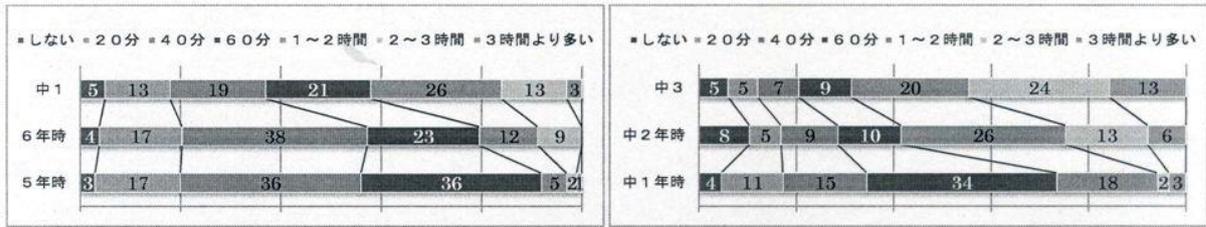
早寝・早起き・朝ごはんで元気に！

全国的な学力調査や体力テストの結果から、生活習慣と学力・体力の間には強い相関関係があり、朝食を毎日食べ、毎日同じ位の時間に寝る生活を送っている人ほど、学力テストの正答率が高い傾向があるようです。夜遅くまで勉強しても、寝不足で頭が働かないようではせっかくの努力が台無しです。早寝をしてよい睡眠をとることで、からだの成長や心の安定に必要なホルモンが脳からたくさん出ます。また、学習したことが脳にしっかりと記憶されます。ぜひ、この機会に生活を見直し、心もからだも元気にしましょう。

メディアコントロールに挑戦しよう！

メディア接触の時間が長くなることで視力低下などの身体への影響や睡眠不足になるだけでなく、人とのコミュニケーションをとる力や感情をコントロールする力など脳への影響もあるといわれています。

夏休みにポケモンGOが話題になり、子どもだけでなく大人の使い方も大変問題になっていました。子どもたちの健やかな成長のために、もう一度メディアのルールについて、家族一緒に見直してみましょう。



4. 学力向上

- ・教科部会（国語、算数・数学、外国語活動・英語）を開催し、指導方法等を共有し小中連携することにより、学ぶ意欲を高めたり、確かな学力の定着ができるよう検討した。
- ・小学6年生を対象に中学教員による授業体験を行い、学ぶ楽しさや中学校での授業の様子を知り、中1ギャップの解消に努めた。
（2学期に小学校の教室で理科または英語、3学期に新入生説明会の時に中学校の教室で2教科選択で実施した。）
- ・中学校の放課後学習に、小学校教員が参加して指導した。
- ・小学校卒業生へ春休み課題を与え、中学校入学後に春休み課題の中から出題したテストを実施し、自信を持って中学校の授業を迎えることができるようにした。また、これで新入生の学習でのつまずきの発見もできた。
- ・「福生中学校区算数・数学数量関係領域の力をつけるカリキュラム」の作成をし、課題となる領域を小中で連携して指導できるようにした。
- ・情報モラル教育の充実を図るために、9年間を見通した「福生中学校区情報モラル教育指導計画」の作成をした。そして、指導計画の指導資料、指導案などを各校で共有するようになっている。
- ・ノーメディアウィーク（なるべくテレビやDVDを見ない、ゲームをしない、インターネットをしない）週間を設定し、家庭で決めた取り組みによって、家族で話をする機会の増加、生活習慣の改善につながるように家庭に働きかけた。（1・2学期に1回ずつ）
- ・自主学習ノート（自学ノート）の全員提出と内容の充実が達成できるように小中で連携して指導した。
- ・「福生中学校 家庭学習の手引き」を活用し、参観日等に保護者に中学校区の学力向上の取り組みを知らせ、9年間を通した家庭学習の習慣化を図った。